

(様式7)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3271100541		
法人名	株式会社 しんわ		
事業所名	グループホーム しんわ		
所在地	島根県八東郡東出雲町下意東761番地の1 (電話) 0852-53-0547		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月4日	評価確定日	平成21年9月28日

【情報提供票より】(21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤9人 非常勤12人	常勤換算17.2人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(10万円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.3歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院、生協東出雲診療所、高木歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小学校、神社が近くにあり、周りに民家の多い、デイサービスを併設した開設満5年のホームである。近隣や地域との交流に努めており、今年度は地元消防団と合同での避難訓練が実施できた。ホーム長、管理者は職員の要望、運営推進会議からの意見に耳を傾けて、対策を講じている。職員からの提案による「よりよいケアをする」という改善への取り組みが2年目を迎え、サービスの充実に取り組んでいる。チームワークが大切にされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善に向けてホームを挙げての意欲がうかがえる。前回評価結果は改善計画シートを作成し、新様式サービス計画書を活用して介護計画の充実、地域の協力による避難訓練など改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組み、ミーティングで話し合い、気づいたことから改善に取り組んでいる。自己評価、外部評価をサービスの向上、改善に積極的に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	町職員、地域包括支援センター、自治会3地区、駐在所、利用者、家族等の参加で開催をしている。職員の参加も多く、外部評価報告、事例紹介等によりホームへの理解を深めている。会議の意見により、屋外防災用サイレンの設置、地域と合同の避難訓練が実施された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族はよく来訪され、健康状態、近況を知らせた後、意見、要望をよく聞いている。2ヶ月に1回発行するお便りには担当者のコメントを添えている。年1回の家族懇談会では家族だけの意見交換の場をとるなど、意見のしやすい工夫をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方が差し入れを持って立ち寄られたり、散歩の途中声をかけて下さる。登下校の子供たちとふれあったり、小学生の学習の場としても受け入れている。諸行事にも積極的に参加し、地域に溶け込んでいる。広報誌を年数回発行し、町内回覧している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立3年目に職員全員で話し合っ、地域との関係性を重視した理念にと見直しをした。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内各所に掲示し、日常的に意識し共有できるようにしている。職員は理念に基づいた実践を心がけている。	
2. 地域との支えあい				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方が声をかけて下さったり、食材の差し入れもある。地域の行事には積極的に参加し、小学生の学習の場として受け入れている。地元消防団と合同での避難訓練を実施した。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ガイドブックを参考にし、改善計画シートを作成し改善に取り組んでいる。全職員が評価の意義を良く理解している。外部評価訪問日の立会いには多くのスタッフが参加し、思いを共有している。	

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域と合同の避難訓練の実施や、屋外防災用サイレンの設置は、会議で提案され実現した。事例紹介をするなどホームの様子をよく伝えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時相談してアドバイスがもらえる関係が築かれている。管理者は町の会議の構成員ともなり、連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時には利用者の状態の報告、出納帳の確認を行い、必要に応じ電話での報告もしている。生活の様子や行事を写真と共に便りで知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、要望を聞くよう心がけている。家族の訪問が多く、家族も職員と一緒に利用者を支えている。年1回家族懇談会を開き交流している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来管理者の交代はなく、職員の異動は最小限にしている。ユニット間は交流があり、馴染みの関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	よりよいケアを目標に職員が自主的に3グループに分かれて研修や改善への取り組みを行い、目的意識を持って外部研修に参加している。全職員が研修に参加している。	○	さらに年間の研修計画を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互研修では情報を交換しあい、テーマを持って取り組んでいる。見たり学んできた事を報告し、ケアに活かしている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には日帰りのお試しやショートステイを、入所後は本人が落ち着くまで、家族が毎日来訪されたり、泊まられたりする。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	関係者が情報交換を行い利用者の得意分野を発見している。畑仕事やできる事をしてもらい、感謝の言葉を伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話し合い寄り添う場面を多くして思いの把握に努めている。ラーメンを食べたいという希望には、ラーメン店に出張してきて貰い実現させた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成には利用者も話し合いに参加できる。職員全員で家族や本人の気持ちに添った計画書を作成している。センター方式を取り入れ家族からも情報を得て内容に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、全体会で話し合い現状に即した見直しを行っている。朝、夕の申し送りを大切にし、利用者の状態を共有しながら必要な場合はその都度見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外出や通院など、家族が困難の場合は柔軟に対応している。医療連携体制加算を取り利用者の健康管理を行っている。ショートステイも実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向で主治医を決めている。入居時にかかりつけ医への継続受診が可能であることを説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者については、家族等と話し合って医療面の対応も含めて話し合い方針の確認をしている。	○	職員とも話し合いをすることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族向けとは別に個人情報に配慮して地域向けの広報誌を発行している。[より良いケアをする為に]というテーマで言葉遣い、接遇を見直す改善への取り組みも続けられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペースに沿って支援できるよう、業務の見直しを行い、利用者と寄り添う時間を多くとっている。外に出られた利用者も引き止めるのではなく様子を見守るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に合わせた食事作りや後片付けなどを行っている。職員も一緒に会話しながら食事をしていて和やかな雰囲気があった。茶碗、湯のみ、箸箱など個人の物を使用している。	
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めず、希望に添ってゆっくり入浴が楽しめるように支援している。異性の職員を好まれない場合は同性が見守り介助を行っている。シャワーチェアを利用するなど、本人の負担を軽減する工夫もしている。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事的仕事も利用者にあった内容を検討し、支援している。季節の花を活けたり、将棋や畑仕事を楽しまれている。気分転換に外出、外食も相談し希望があれば実施している。	
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りでの外気浴や散歩、外食、買い物、ドライブ、自宅への帰宅、ベランダ、庭での食事など天候と利用者の希望に合わせた支援をしている。	
(4)安心と安全を支える支援				
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。外出希望がある時は、引き止めるのではなく、本人の思うところ迄について行っている。家族の面会時間の設定もしていない。	

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。区長会や運営推進会議で地域への協力を呼びかけ、地域と協力した訓練が実現した。水、米など非常用備蓄をしている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取目標を設け、摂取量を把握している。カルピスなど好みの飲み物を用意したり、好む柄の湯のみを購入して、お茶会をし水分が不足しないよう工夫している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から厨房の様子が良く見え、刻む音やいい匂いがしてくる。中庭には夏の名残の朝顔が咲いていた。車椅子で移動しやすい配慮がしてある。	
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を持ち込んで頂いている。ホームの生活の中での笑顔の写真、手作りの装飾が飾られたり、孫からの絵手紙が貼ってある。	

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。